



「補聴器は、早め早めがおすすりめです」

高齢化社会の日本では、補聴器のニーズが高くなっています。おぎはら耳鼻咽喉科にも、補聴器の試聴希望の方が毎日のようにやってきます。元気な方だと、90歳を超えてから補聴器にチャレンジすることもあります。

年齢を重ねることで聞こえが悪くなるのは自然なことですが、個人差がかなりあります。60代になって、だんだん聞こえにくさが悪化してくる人が多いと思いますが、80代になってほとんど正常な聴力を保っている人もいます。

どのくらいの聴力になったら補聴器をするべきか、患者さんによく聞かれます。聴力の単位は通常〇〇デシベル（平均値）で示されますが、何デシベル以上なら補聴器をすべき、というような決まりはありません。正常範囲は平均値で25デシベル以内とご説明していますが、平均聴力が40デシベルより悪くなると、聞こえにくさを自覚される方が多いように思います。30デシベル台でもご本人が難聴によって不便を感じられるような場合は、補聴器の適応となります。聴力のパターン（高音がとくに聞こえにくいなど）やライフスタイルによっても困り具合は人それぞれです。聞こえにくさを自覚したら、早いうち（若いうち）に補聴器を試すことをおすすめしています。早め早めにご相談くださいね。

オギジビ豆知識



10月はハロウィーンのリ節です。オギジビの院内はいろんなところにハロウィーンのリ飾り付けがされています。是非、探してみてくださいね！

10月31日には、受付でいつもより豪華なおやつを用意しています。

「トリック オア トリート」と声をかけてみてください。



オギジビのリ輪

- お友達・お知り合いに、是非おぎはら耳鼻咽喉科をご紹介ください。
- 神奈川県では珍しい、言語聴覚士のいる耳鼻咽喉科です。難聴や補聴器については大学病院レベルの診察・検査体制を整えています。
- ちょっとした不安の解消から専門的な診察まで、幅広く行っています。